

教材例のコンセプトについて

1 教材例作成の目的

・「標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック(仮称)」の内容を踏まえた教材例の作成を行うことで、地域の実情に応じた日本語教育の教材作成を支援する。教材例は次の二つの性格を備えるものとする。

- (1) 標準的なカリキュラム案に基づいた教材の例示であること
- (2) 工夫や修正を加えることが容易であり、各地域の実情に応じた教材の基として活用しやすいものであること

2 教材例の大枠

(1) 名称の案

・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材例

(2) 内容

・生活上の行為の事例を日本語を用いて行えるようになるための活動で用いる教材を例示する。
・資料5「教材例のサンプルについて」のサンプル③を基本とするが、取り上げる生活上の行為の事例に合わせて工夫を行う。

(3) 教材例の構成

・事例ごとに、①～⑤のシート(A4, 各1枚程度)を作成。1事例当たり、4～5ページを基本とする。

- ① 教室活動の展開の説明
- ② 生活上の行為に関連する写真・イラスト
- ③ ことば(単語)のリスト
- ④ キーフレーズ(やり取りの例に工夫を加えたものを活用)
- ⑤ ワーク(タスク)

(4) 取り扱う生活上の行為の事例

・2～3ページ参照。
・生活上の行為の事例に合わせて量やワーク(タスク)等に工夫を加える。

(5) 留意点

・教材例作成の際、資料3『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」活用のためのガイドブック』の2～3ページ、「言語や言語習得についての考え方」と矛盾しないような内容とする。

(6) 作業期間

・年度末を目途に作成を行う。
(参考資料1「日本語教育小委員会における検討内容の大枠とそのスケジュール(案)」参照。)

○教材例で取り上げる生活上の行為の事例

⇒教材例で取り上げる生活上の行為の事例（※教材例のみ使用されることも想定し、教材例単独である程度のまとまりを持たせる）

I 健康・安全に暮らす [7 単位]

01 健康を保つ [3.5 単位]

(01) 医療機関で治療を受ける [2 単位]

- 01 隣人に容態を伝えて助言を求める
- 02 初診受付で手続をする
- 03 医者の診察を受ける
- 04 病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する

(02) 薬を利用する [1 単位]

- 01 医療機関で処方せんをもらい、内容を確認する
- 02 症状を説明し、薬を求める
- 03 薬剤師等の「効能、用法、注意」の説明を理解する

(03) 健康に気を付ける [0.5 単位]

- 01 流行性の病気についての情報を理解し適切に対処する
- 02 食品や飲料水の安全情報を理解する

02 安全を守る [3.5 単位]

(04) 事故に備え、対応する [2 単位]

- 01 各種の標識・注意書き等を理解する（高電圧危険、感電注意、立入禁止等）
- 02 有効な施錠の仕方について理解する
- 03 警察（110 番）に電話する
- 04 近くの人に知らせる（事件等）
- 05 救急車を要請する
- 06 近くの人に知らせる（事故等）

(05) 災害に備え、対応する [1.5 単位]

- 01 自治体広報、掲示、看板等を理解し、現地を確認する
- 02 避難場所・方法を理解する・人に聞く
- 03 ☆地震について理解する
- 04 身を守る（地震発生時）
- 05 ☆台風について理解する
- 06 天気予報・台風情報に留意し理解する
- 07 消防・救急（119 番）や警察（110 番）に電話する（火災等）

※まとめて1つとする

(07) 住居を管理する [0.5 単位]

- 01 ☆開始手続について理解する
- 02 申込みをする（電気、ガス、水道等）

※まとめて1つとする

III 消費活動を行う [4.5 単位]

05 物品購入・サービスを利用する [3 単位]

(08) 物品購入・サービスを利用する [3 単位]

- 01 必要な品物を扱う店等を探す
- 02 ☆目的によって店舗の種類を使い分けを知ること
- 03 販売しているところを探す
- 04 デパート、スーパーマーケット、コンビニ、電器店、書店等で買い物をする ※他の事例も絡めながら3事例分作成する
- 05 店内の表示を見たり店員に尋ねて欲しいものの場所を探す
- 06 売り場を尋ねる
- 07 店員に商品について尋ねる
- 08 値段を知る
- 09 商品の機能や値段を尋ねる
- 10 商品の表示を読む
- 11 値段・税率を計算する
- 12 試着を申し出る
- 13 色違いのものを頼む
- 14 サイズの変更を申し出る
- 15 ポイントカードや割引券を利用する
- 16 クレジットカードを利用する
- 17 必要なものを選んで購入する
- 18 支払いをする（対面販売）
- 19 返品・交換をする
- 20 注文する
- 21 店ごとに受けられるサービスと代価を理解する（飲食店等の利用）
- 22 希望の食べ物を扱う店を探す
- 23 電話で予約する
- 24 店員と話す
- 25 店で人数や禁煙・喫煙などの希望を伝える
- 26 メニューを読む
- 27 メニューを選んで注文する
- 28 食券を買う
- 29 追加の注文をする
- 30 支払いをする（飲食店）
- 31 ☆店ごとに受けられるサービスと代価を理解する（各種サービスの利用）
- 32 店舗を探す
- 33 利用方法を知る
- 34 コンビニエンスストアのサービス（ATM、ファック

II 住居を確保・維持する [2 単位]

03 住居を確保する [1.5 単位]

(06) 住居を確保する [1.5 単位]

- 01 不動産業者に相談する
- 02 居住する地域を選択する
- 03 賃貸契約をする
- 04 引っ越し業者に依頼する
- 05 必要な手続を行う

04 住環境を整える [0.5 単位]

- ス、公共料金の支払い等)を利用する
- 35 クリーニング店、レンタルビデオ店、美容院、理容店を利用する
- 36 商品に添えられた情報を的確に理解する
- 37 新聞広告・折り込み広告を理解する
- 38 レシートを確認する
- 39 レシートを理解する
- 40 代金を支払う
- 41 カードの利用の可・不可を確認する

06 お金を管理する [1.5 単位]

- (09) 金融機関を利用する [1.5 単位]
- 01 申込みをする (口座開設)
- 02 預金の引出しをする

IV 目的地に移動する [3.5 単位]

07 公共交通機関を利用する [2.5 単位]

- (10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する [1.5 単位]
- 01 発車する時刻や掛かる時間を尋ねる
- 02 目的地への行き方を尋ねる
- 03 券売機を利用する
- (11) タクシーを利用する [1 単位]
- 01 タクシー乗り場を探す
- 02 道路でタクシーを止める
- 03 行き先を告げる
- 04 運賃を聞き取り、支払う

※まとめて
1つ

08 自力で移動する [1 単位]

- (12) 徒歩で移動する [1 単位]
- 01 住所表示、交差点名、街の案内地図などを読む
- 02 地図上で目的地を確認する
- 03 地図を書いてもらう
- 04 目的地の方向や距離を確認する
- 05 目的地までの道を尋ねる

VII 人とかわる [2.5 単位]

14 他者との関係を円滑にする [2.5 単位]

- (31) 人と付き合う [2.5 単位]
- 01 ☆あいさつの種類と目的を理解する
- 02 ☆TPOに合った適切なあいさつ形式を理解する
- 03 時宜に合ったあいさつを学んで実行する
- 04 ☆あいさつの文化的相違を理解する
- 05 相手に合わせたあいさつをする
- 06 日常のあいさつをする
- 07 人間関係のきっかけを作るあいさつをする
- 08 ☆自己紹介の仕方を理解する
- 09 ☆相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する
- 10 仕事上の公的な自己紹介をする
- 11 私的な場面で自己紹介をする
- 12 分からないとき、疑問に思ったとき信頼できる相手に質問する (日本の一般的なマナー等について)

※まとめて1つ

※自己紹介で1つ

15 地域・社会のルール・マナーを守る [2.5 単位]

- (33) 住民としての手続をする [1 単位]
- 01 ☆各種手続の種類や内容について理解する
- 02 役所の受付で外国人登録窓口の場所を尋ねる
- 03 支払方法を確認する (各種税金)
- 04 必要性を確認する (確定申告、還付申告)
- (34) 住民としてのマナーを守る [1.5 単位]
- 01 居住地域のゴミ出しについて地域の公的機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する
- 02 居住地域のゴミ出しの方法について隣人に質問する
- 03 マナーについて人に相談する

16 地域社会に参加する [2 単位]

- (35) 地域社会に参加する [2 単位]
- 01 居住地の自治会について隣人に尋ねる
- 02 自治会の会員になる
- 03 行事に参加する

IX 自身を豊かにする [2 単位]

20 余暇を楽しむ [2 単位]

- (44) 余暇を楽しむ [2 単位]
- 01 ☆余暇を過ごす場所や利用方法を知る
- 02 適当な人からアドバイスをもらう
- 03 同僚や周囲の人からの口コミ情報を得る
- 04 ☆施設の種類の種類や制度について知る (地域の公共施設)
- 05 利用方法を尋ねる (地域の公共施設)

X 情報を収集・発信する [4 単位]

21 通信する [3.5 単位]

- (45) 郵便・宅配便を利用する [2 単位]
- 01 ☆郵便局のシステムを理解する
- 02 手紙や葉書を書いて送る
- 03 不在配達通知に対応する
- 04 宅配便を受け取る

※まとめて1つ

(46) インターネットを利用する [0.5 単位]

- 01 ☆インターネットのサービス内容・利用方法を理解する
- 02 インターネット検索の方法を人に尋ねて理解する
- 03 電子メールを書く

(47) 電話・ファクシミリを利用する [1 単位]

- 01 電話を掛ける
- 02 応答する

22 マスメディアを利用する [0.5 単位]

- (48) マスメディア等を利用する [0.5 単位]
- 01 テレビ番組を見る

VIII 社会の一員となる [4.5 単位]

【参考①】

第33回日本語教育小委員会が出された意見の概要(※「教材例のコンセプト」に関わる部分のみ)

全般について

- 実際の教材は各地域で作成することとなるが、素材集では各地域で十分に活用されない可能性がある。日本語教育小委員会としては具体的なものの例示を行う。
- 日本語教育について詳しく知らない者でも使用できるようなシートを作成し、そのシートを集めたものを教材集とするのがよい(補足：国際交流協会の職員の中には日本語教育の専門家ではない者も含まれるため)。

「2(1)名称の案」について

- 本小委員会で作成する教材例は飽くまでも例であり、各地域の実情に即した形で教材が作成されるのが望ましい。そのため、「テキスト」や「教科書」等、使用が義務であると思わせるような用語は避ける。各地域が教材を作成する際の参考であるということ、必要な部分を選択して活用すべきものであるということが分かるように「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材集」がよいのではないか。

「2(2)内容, 2(3)各シートの構成について」について

- シートは具体的なものを作成する(現場で使うことも可能なものを作成する)。
- シートを作成する際、教室活動の流れが見えるようなものにすることが重要である。流れが見えるようにする方法については、①「説明+教材」(参考資料4「教材例の例(教材例のコンセプト検討用)」p.10参照)、②流れをページ構成に反映させる方法がある。
⇒①、②のどちらの形を取るかについては要検討。
- イラストや写真等により、生活上の行為の場面(場所、相手、状況等)を可視化することが必要である。

「2(4)取り扱う生活上の行為」について

- 教材例は30単位全部を取り上げるのではなく、各地域によって30単位分教材例を作成する際のひな型となるものを提供する。
- 「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」の「V 標準的なカリキュラム案の活用例」(p.99~p.107)と「標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック(仮称)」の教室活動の展開例(資料4「具体的な日本語教育プログラム例(案)」p.7,13-14,21)で11例取り上げているので、それに対応させる形でまずは教材例を11例作成するのがよいのではないか。
⇒その後、教材例数を増やすかどうかについては今後検討。
- 教材例は「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」の「V 標準的なカリキュラム案の活用例」(p.99~p.107)や「標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック(仮称)」の教室活動の展開例(資料4「具体的な日本語教育プログラム例(案)」p.7,13-14,21)とセットにして示す方が分かりやすいのではないか。
⇒「教材例を単体で取りまとめるのではなく、ガイドブックに溶け込ませる形で取りまとめを行う」という意見については要検討。

【参考②】

第32回日本語教育小委員会が出された意見の概要(※「教材例のコンセプト」に関わる部分のみ)

- AJALTで開発をした「リソース型生活日本語」は支援者向けのものである。いくつかの地域日本語教育の現場で専門家が加わっていくつか教材が作成された。ただ、現状では地域日本語教育の体制が整っていないので各地域で教材を作成するというのは無理ではないか。
- 標準的なカリキュラム案を活用する際、地域で工夫することが求められるが、地域の日本語教育はボランティアが担っているというのが現状である。そのため、各地域で工夫を加えることを前提とした教材では、ボランティアが対応し切れず、その結果、使われないということが起こる可能性がある。したがって、コーディネータを対象とした教材例ではなく、直接学習者の手に渡る物が必要であり、その際は学習者や地域の多様性への対応が可能な教材ではなく、普遍的な部分を取り上げるべきである。
- 標準的なカリキュラム案で提示している全30単位を取り上げた教材例が理想。それぞれの地域で教室活動を行う際に助けとなるものが良い。
- 国際交流基金では「みんなの教材サイト」という教師の教材例を蓄積していくサイトがあり、活用されている。ただし、そのサイトの使用者はプロの日本語教師である。
- 日本語教育小委員会で作成するのは「教材例」である。日本語教育小委員会ではいくつか例を示し、実際に現場で使うものは、それぞれの現場で作成してもらえないのではないかと。「教材例」として作成するのは、標準的なカリキュラム案やガイドブック（仮称）で示している教室活動の展開例で使うシートがよいのではないかと。
- 教材例として、いわゆる「教科書ではなく」イラストや写真等、教室活動で使えるリソースを取り上げた場合、どこまで取り上げるべきか際限がなくなる。
- 標準的なカリキュラム案で示している30単位分の教材例を作成するのも困難である。30単位の中から精選して教材を作るのがよいのではないかと。それ以外の部分について教室活動を行う人については、「教材例を参考にしてそれぞれ作成してください」という形にせざるを得ないだろう。いずれにしても、教材開発の手掛かりと、教材開発を行うためのリソースを蓄積していくことが大切ではないかと。
- 標準的なカリキュラム案で30単位を示しているが、教材例を作成する際に、全部を取り上げるのではなく、核となるものに特化し、例を示すのがよいのではないかと。例えば、「病院」でのやり取りについて教室活動を行うことを考えると、教室活動の展開例とその活動で使用する教材があるとよい。ただ、いずれにしても、教材例の作成だけでなく、教材例を基に教材を作成したり、教室活動のプランを組み立てるコーディネータの研修が必要となるだろう。
- 現実に行われている教室活動やそこで使われている教材を取り上げるのがよいのではないかと。それこそが現実的なもの、使えるもの（使われているもの）である。
- 教材例の示し方は3通りあるのではないかと。①教材そのものを示す（ただ、小委員会で作成できる量については限界がある）、②写真やイラストの素材だけでなく、それを教室活動にどう組み込むかという使い方を含めて示す、③教室活動で使える素材の入手方法を示す（ネット活用のスキル等）ということに分けられるのではないかと。
- 教材例で取り扱う範囲は限定的にならざるを得ない。ただ、その際、教室活動に落とし込んだ場合に教材例にどのように手を加えるか、どう工夫をするかということを含めて、例を示す必要があるだろう。
- 教材は二つに分類できる。①内容の理解を目指した教材、②活動を促し、支援するための教材。②はどのようなものがあれば、活動がより活発に行われるかということをもとめたものであり、学習材とも言う。